



薬事日報社

東京本社 101-8648
大阪支社 541-0045
購読料 1年36,234円

日本薬学会

第144年会

日本薬学会144年会在28~31日(「遺伝子」や「環境」と共栄する薬文化の創生、持続可能な「デジタル治療」の融合を目指して)をテーマに、横浜市のパシフィコ横浜で開かれる。5年ぶりの完全対面での開催となる今年会は、国の研究機関である国立医薬品食品衛生研究所、国立がん研究センターの協力を得て、共同運営の体制となっているのが特徴。昨年、日本薬学会連合が発足したことを契機に、学

日本薬学会第144年会

28~31日 パシフィコ横浜で開催

組織委員会インタビュー

5年ぶりに完全対面で開催される日本薬学会144年会のテーマ「『遺伝子』や『環境』と共栄する薬文化の創生」



時計回りで右下から米持組織委員長、東副組織委員長、成田副組織委員長、池田広報委員長

「持続可能な「デジタル治療」の融合を目指して」に込められた思いや年会のコンセプトについて、米持組織委員長からお話

「5年ぶりに完全対面で開催される日本薬学会144年会のテーマ「『遺伝子』や『環境』と共栄する薬文化の創生」

「持続可能な「デジタル治療」の融合を目指して」に込められた思いや年会のコンセプトについて、米持組織委員長からお話

「持続可能な「デジタル治療」の融合を目指して」に込められた思いや年会のコンセプトについて、米持組織委員長からお話

「持続可能な「デジタル治療」の融合を目指して」に込められた思いや年会のコンセプトについて、米持組織委員長からお話

過去最大のプログラム数予定

「持続可能な「デジタル治療」の融合を目指して」に込められた思いや年会のコンセプトについて、米持組織委員長からお話

「持続可能な「デジタル治療」の融合を目指して」に込められた思いや年会のコンセプトについて、米持組織委員長からお話

「持続可能な「デジタル治療」の融合を目指して」に込められた思いや年会のコンセプトについて、米持組織委員長からお話

「持続可能な「デジタル治療」の融合を目指して」に込められた思いや年会のコンセプトについて、米持組織委員長からお話



会場となるパシフィコ横浜

成田 今までのような例はほとんどないと思います。私は国立がん研究センター研究所の分野長を兼任しており、また大学全体としても国立がん研究センター研究所と包括連携協定を結んでいます。

薬科系大学特化した教育支援システム『ESS』薬剤師版

私立大学シェア約40%

eラーニングによるきめ細やかな学習指導や、卒業試験等の作成を一元管理できるサービスです。模試問題やリメディアル教材など多彩な学習コンテンツを収録！入学前から国家試験まで様々な教育場面でご利用いただけます。



薬科系大学の国試・CBT対策、試験作成を強力にサポート！



駿台グループ

エスエイティーティー株式会社 03-5259-3390





(1ページから続く)  
注目されている中分子創薬などの内容が多くなっていると思います。一般シンポジウムでは、「中分子創薬研究のフロンティア—中分子創薬に資する次世代分子技術—」中分子医薬および超分子DDSの開発・評価とレギュレーションについて考える」「中分子ペプチド医薬品の未来を拓くイノベーションとレギュレーション」といったように、化学系の基礎研究から臨床開発から上市を見据えたレギュラトリーサイエンスまで、薬学会ならではの幅広い演題が並んでいます。興味を集まりそうな分野を見て、上流から下流まで十分なプログラムを用意できているのではないかと感じます。

「特別講演も例年より多い13題が設定されています。」  
米持 特別講演は非常にレベルが高く、かつ幅広い内容を網羅できたと感じています。ノーベル化学賞受賞者のモートン・メルダル先生(コペンハーゲン大学、デン

### 幅広い内容の特別講演

マーク、島津製作所の田中耕一先生をはじめ、初日には産業界から塩野義製薬の手代木功先生をお招きしています。特に手代木先生には、薬学の学生や若手研究者に向けて、グローバルで活躍する製薬企業が求める人材像についてメッセージを送っていただければ幸いです。

東 メルダル先生は、クリックケミストリーという反応を開発し、2022年のノーベル化学賞を受賞した一人で、「Clicking in Chemistry and Chemical Biology」と題して講演いただきます。

成田 臨床系では、岡野栄之先生(慶應義塾大学医学部)から「幹細胞生物学に基盤を置いた中枢神経系の再生医療と創薬研究」、坂口志文先生(大阪大学免疫学フロンティア研究センター)か

## リクルートコーナーを設置 市民公開講座は星薬大で開催

——新たに展示会場に設置するリクルートコーナーの狙いについて教えてください。

米持 これは日本病院薬剤師会の推薦により設置しました。医療機関で勤務する薬剤師については本当に人材が不足しており、医療機関側から薬学会で発表するような優秀な学生の採用につなげたいというニーズが高いです。

臨床系に限らず、生物系、物理系など何らかのバックグラウンドを持ち、志の高い学生を病院薬剤師部で採用して、指導的な立場の薬剤師に育てたいという期待もありません。

池田 市民公開講座は学会期間中ではなく、1週間前のある23日に星薬科大学で開催します。今回はせっかく星薬大が主催する年会ですし、ちょうど本館が建設されて100周年を迎えることから、大学を紹介したいという思いで場所を選びました。

市民公開講座では二つの講演を行います。一つは埼玉医科大学総合医療

する女性の視点で、特に新型コロナウイルス感染症のmRNAワクチンを開発した米モデルナ日本法人前社長の鈴木蘭美先生をお呼びしています。

ダイバーシティの話題も増えています。今回は少し違った視点でのダイバーシティを考える内容になったと自負していますので、薬学会に参加する女子学生が将来を考慮する上で参考になるようなシンポジウムになってほしいです。

また、松島綱治先生(東京理科大学大学院生命科学研究科)からは「ケモカイン発見による白血球浸潤機序の解明と創薬開発研究」をテーマにご講演いただきます。松島先生は、協和キリンとの共同研究で抗癌剤セガムリズマブの創製に関わっており、15年度の日本薬学会創薬科学賞を受賞されています。基礎研究から創薬までの道筋をしっかりと話しただけののではないのでしょうか。他の先生方も、基礎研究に基盤を置きつつ、臨床を見据えた研究者ばかりの構成となっています。

成田 臨床系では、岡野栄之先生(慶應義塾大学医学部)から「幹細胞生物学に基盤を置いた中枢神経系の再生医療と創薬研究」、坂口志文先生(大阪大学免疫学フロンティア研究センター)か

ら「免疫応答の制御・新しい免疫医療に向けて」、間野博行先生(国立がん研究センター)から「がん創薬とゲノム」と題してご講演いただきます。いずれも毎回ノーベル賞候補に名前の挙がる先生ばかりで、その領域のトップクラスの研究者が網羅されていると思います。

米持 今回はコロナ後、久しぶりの完全対面での年会ということもあり、特別講演も13題と例年より充実させ、参加者が対面の良さを実感できる輝々たる演者に集まってもらえることができると期待しています。

——ジョイントシンポジウムについてはいかがですか。

米持 学会融合を目指したジョイントシンポジウムは、日本薬学会連合の立ち上げに関わっている各学会に声をかけて

実現したものです。例えば、日本毒性学会との共催による「環境化学物質による付加体形成を介した生体恒常性への影響」、日本医療薬学会と日本薬劑学会との3学会による「医療に貢献する院内製剤・患者・臨床・企業とのニーズを探り、情報を集約する」のほか、日本臨床化学会との共催による「第8回臨床化学の進歩が変える薬物治療」など11のテーマを設定しています。

化学を基盤とする薬学会と、臨床系の応用を視野に入れた学会とジョイントシンポジウムを開催することにより、優れた創薬シーズが生み出されるきっかけになるのではないかと期待しています。特に基礎系の学生には、自分の行っている研究が将来どのような役に立つのか見えるようになるかと考えています。

——参加見込みと参加者へのメッセージをお願いします。

米持 最終的には900人以上を見込んでいます。非会員でもワンデーパーを利用できますし、幅広い内容でサイエンスレベルの高い話題を取り揃えていますので、ぜひ横浜に足を運んでいただいで講演を聴いて、久しぶりの友人と語り合ったりしてほしいと思います。

多くの参加をお待ちしています。

市民公開講座では二つの講演を行います。一つは埼玉医科大学総合医療

センター麻酔科教授の小幡英章先生から「痛みはもはや我慢するものではないー健康を維持する生活の質を下げないための「防・治療の進歩」として」。

一般的に癌や痛みは身近なテーマですし、歴史的に星薬大は星製薬がモルヒネを生産した経緯から、麻薬や痛みは中心的な研究テーマでもありました。そうした大学の特色も出しつつ、一般の人にも身近に感じているテーマを扱いました。

米持 一般学術発表は口頭、ポスター合わせて約3600題と多くの演題が集まりました。一般学術発表については、学生を対象に「学生優秀発表賞」を設けています。今回は受賞者を増やしたいと思っていますので、

学生には振るって参加をお願いしたいと思っています。

また、研修認定単位についても、新たに(G07)神戸薬科大学、(G11)星薬科大学、(G13)薬学ゼミナール生涯学習センター、(G20)ソーシヤルユニバーシティ薬剤師生涯学習センター、(P02)日本プライマリ・ケア連合学会の認定単位も取得できるようになりました。土日参加でも十分に単位を取得できますので、ぜひ現場で働く薬剤師の皆さん

にも参加してほしいです。

——参加見込みと参加者へのメッセージをお願いします。

米持 最終的には900人以上を見込んでいます。非会員でもワンデーパーを利用できますし、幅広い内容でサイエンスレベルの高い話題を取り揃えていますので、ぜひ横浜に足を運んでいただいで講演を聴いて、久しぶりの友人と語り合ったりしてほしいと思います。

多くの参加をお待ちしています。

市民公開講座では二つの講演を行います。一つは埼玉医科大学総合医療

センター麻酔科教授の小幡英章先生から「痛みはもはや我慢するものではないー健康を維持する生活の質を下げないための「防・治療の進歩」として」。

一般的に癌や痛みは身近なテーマですし、歴史的に星薬大は星製薬がモルヒネを生産した経緯から、麻薬や痛みは中心的な研究テーマでもありました。そうした大学の特色も出しつつ、一般の人にも身近に感じているテーマを扱いました。

市民公開講座では二つの講演を行います。一つは埼玉医科大学総合医療

センター麻酔科教授の小幡英章先生から「痛みはもはや我慢するものではないー健康を維持する生活の質を下げないための「防・治療の進歩」として」。

一般的に癌や痛みは身近なテーマですし、歴史的に星薬大は星製薬がモルヒネを生産した経緯から、麻薬や痛みは中心的な研究テーマでもありました。そうした大学の特色も出しつつ、一般の人にも身近に感じているテーマを扱いました。

市民公開講座では二つの講演を行います。一つは埼玉医科大学総合医療

センター麻酔科教授の小幡英章先生から「痛みはもはや我慢するものではないー健康を維持する生活の質を下げないための「防・治療の進歩」として」。

一般的に癌や痛みは身近なテーマですし、歴史的に星薬大は星製薬がモルヒネを生産した経緯から、麻薬や痛みは中心的な研究テーマでもありました。そうした大学の特色も出しつつ、一般の人にも身近に感じているテーマを扱いました。

市民公開講座では二つの講演を行います。一つは埼玉医科大学総合医療

センター麻酔科教授の小幡英章先生から「痛みはもはや我慢するものではないー健康を維持する生活の質を下げないための「防・治療の進歩」として」。

一般的に癌や痛みは身近なテーマですし、歴史的に星薬大は星製薬がモルヒネを生産した経緯から、麻薬や痛みは中心的な研究テーマでもありました。そうした大学の特色も出しつつ、一般の人にも身近に感じているテーマを扱いました。

市民公開講座では二つの講演を行います。一つは埼玉医科大学総合医療

センター麻酔科教授の小幡英章先生から「痛みはもはや我慢するものではないー健康を維持する生活の質を下げないための「防・治療の進歩」として」。

一般的に癌や痛みは身近なテーマですし、歴史的に星薬大は星製薬がモルヒネを生産した経緯から、麻薬や痛みは中心的な研究テーマでもありました。そうした大学の特色も出つつ、一般の人にも身近に感じているテーマを扱いました。

市民公開講座では二つの講演を行います。一つは埼玉医科大学総合医療

センター麻酔科教授の小幡英章先生から「痛みはもはや我慢するものではないー健康を維持する生活の質を下げないための「防・治療の進歩」として」。

一般的に癌や痛みは身近なテーマですし、歴史的に星薬大は星製薬がモルヒネを生産した経緯から、麻薬や痛みは中心的な研究テーマでもありました。そうした大学の特色も出つつ、一般の人にも身近に感じているテーマを扱いました。

市民公開講座では二つの講演を行います。一つは埼玉医科大学総合医療

センター麻酔科教授の小幡英章先生から「痛みはもはや我慢するものではないー健康を維持する生活の質を下げないための「防・治療の進歩」として」。

一般的に癌や痛みは身近なテーマですし、歴史的に星薬大は星製薬がモルヒネを生産した経緯から、麻薬や痛みは中心的な研究テーマでもありました。そうした大学の特色も出つつ、一般の人にも身近に感じているテーマを扱いました。

市民公開講座では二つの講演を行います。一つは埼玉医科大学総合医療

センター麻酔科教授の小幡英章先生から「痛みはもはや我慢するものではないー健康を維持する生活の質を下げないための「防・治療の進歩」として」。

一般的に癌や痛みは身近なテーマですし、歴史的に星薬大は星製薬がモルヒネを生産した経緯から、麻薬や痛みは中心的な研究テーマでもありました。そうした大学の特色も出つつ、一般の人にも身近に感じているテーマを扱いました。

市民公開講座では二つの講演を行います。一つは埼玉医科大学総合医療

Design Your Smile 健康創造のスズケングループ

地球の健康とすべての人々の健康で豊かな生活に貢献したい。それが私たちスズケンの壮大なテーマです。

スズケンの事業領域は、健康創造。医薬品流通業界のリーディングカンパニーとして医薬品・医療機器の供給をはじめ健康に関するあらゆる分野でお役に立てるプライム・ベンダーをめざしています。

